

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	2学年	履修期	1学期
授業科目	栄養学Ⅱ (食事療法)						
単位・時間数	1単位・15時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義・演習						
科目目標	1. 疾患と食事療法の関係性を理解し、治療としての食事療法を理解する。 2. 演習を通して食事指導を行うための知識を習得する。						
授業計画	第1回(講義) 1. 栄養食事療法とは 1) 栄養食事療法の概要 2) 医療・福祉の場における栄養食事療法 3) 栄養食事療法の実際  第2回(講義・演習) 疾患・症状別食事療法 : 栄養・代謝性疾患患者の食事療法 呼吸器疾患患者の食事療法  第3回(講義・演習) 疾患・症状別食事療法 : 消化器疾患患者の食事療法  第4回(講義・演習) 疾患・症状別食事療法 : 循環器疾患患者の食事療法 腎・泌尿器疾患患者の食事療法  第5回(講義・演習) 疾患・症状別食事療法 : 血液疾患患者の食事療法 褥瘡の食事療法 小児の食事療法  第6回(講義・演習) 疾患・症状別食事療法 : 術前・術後の栄養管理 がん患者の食事療法  第7回(演習) 食事指導のグループワーク発表  第8回 科目終了試験						
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 (医学書院) 2. 糖尿病の食事療法のための食品交換表 (文光堂)						
参考書							
備考 (メッセージ)	講義と演習を交えて学習を進めていきます。演習については、各グループに分かれて、各疾患に関する食生活リーフレットを作成し、講義最終日に作成した食生活リーフレットを用いて発表会を行います。						

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	2学年	履修期	1学期		
授業科目	臨床治療論								
単位・時間数	1単位・15時間	実務経験の有無	有						
授業方法	講義・演習								
科目目標	1. 呼吸機能を有効に活用するための肺理学療法および運動機能障害による残存機能強化のための運動療法について理解する。 2. 基本的な放射線画像診断の原理と診断方法および放射線治療の基礎と看護師の役割について理解する。 3. ME 機器の管理について基本的知識を理解する。								
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>〈理学療法〉</p> <p>第1～2回(講義・演習)</p> <p>1. 肺理学療法</p> <p>1)肺理学療法の基本概念</p> <p>2)肺理学療法の実際〔校内実習〕</p> <p>(1)呼吸訓練 (腹式呼吸、胸式呼吸、口すぼめ呼吸、インセンティブ・スパイロメトリ)</p> <p>(2)呼吸筋訓練 (過換気法、呼吸抵抗負荷法)</p> <p>(3)排痰法 (体位ドレナージ、用手的呼吸介助、催咳法、ハッフイング)</p> <p>第3回〔校内実習〕(講義・演習)</p> <p>2. 運動療法</p> <p>1)主な関節の基本肢位と正常の関節可動域の評価</p> <p>(1)関節可動域測定法(ROM)</p> <p>(2)徒手筋力テスト(MMT)</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>〈放射線画像診断・放射線治療〉</p> <p>第4回(講義)</p> <p>1. X線診断</p> <p>1)一般撮影(単純撮影) 原理と注意事項</p> <p>2. MRI 検査</p> <p>1)MRI 検査とは何か</p> <p>2)MRI 検査時の注意点</p> <p>3. 放射線防護・管理の基本</p> <p>1)放射線防護に関わる病院の義務と医療従事者の権利・義務</p> <p>2)放射線防護の3原則</p> <p>3)</p> <p>第5回(講義)</p> <p>1. 放射線治療の原理・基礎</p> <p>2. 正常組織の有害反応</p> <p>3. 治癒線量・耐容線量と治療可能比</p> <p>4. 放射線治療の特徴と目的</p> <p>5. 放射法の種類</p> <p>〈ME 機器〉〔校内実習〕(講義・演習)</p> <p>第6～7回</p> <p>1. 人工呼吸器</p> <p>2. 心電図モニター</p> <p>3. 輸液ポンプ・シリンジポンプ</p> <p>第8回</p> <p>科目終了試験</p> </td> </tr> </table>							<p>〈理学療法〉</p> <p>第1～2回(講義・演習)</p> <p>1. 肺理学療法</p> <p>1)肺理学療法の基本概念</p> <p>2)肺理学療法の実際〔校内実習〕</p> <p>(1)呼吸訓練 (腹式呼吸、胸式呼吸、口すぼめ呼吸、インセンティブ・スパイロメトリ)</p> <p>(2)呼吸筋訓練 (過換気法、呼吸抵抗負荷法)</p> <p>(3)排痰法 (体位ドレナージ、用手的呼吸介助、催咳法、ハッフイング)</p> <p>第3回〔校内実習〕(講義・演習)</p> <p>2. 運動療法</p> <p>1)主な関節の基本肢位と正常の関節可動域の評価</p> <p>(1)関節可動域測定法(ROM)</p> <p>(2)徒手筋力テスト(MMT)</p>	<p>〈放射線画像診断・放射線治療〉</p> <p>第4回(講義)</p> <p>1. X線診断</p> <p>1)一般撮影(単純撮影) 原理と注意事項</p> <p>2. MRI 検査</p> <p>1)MRI 検査とは何か</p> <p>2)MRI 検査時の注意点</p> <p>3. 放射線防護・管理の基本</p> <p>1)放射線防護に関わる病院の義務と医療従事者の権利・義務</p> <p>2)放射線防護の3原則</p> <p>3)</p> <p>第5回(講義)</p> <p>1. 放射線治療の原理・基礎</p> <p>2. 正常組織の有害反応</p> <p>3. 治癒線量・耐容線量と治療可能比</p> <p>4. 放射線治療の特徴と目的</p> <p>5. 放射法の種類</p> <p>〈ME 機器〉〔校内実習〕(講義・演習)</p> <p>第6～7回</p> <p>1. 人工呼吸器</p> <p>2. 心電図モニター</p> <p>3. 輸液ポンプ・シリンジポンプ</p> <p>第8回</p> <p>科目終了試験</p>
<p>〈理学療法〉</p> <p>第1～2回(講義・演習)</p> <p>1. 肺理学療法</p> <p>1)肺理学療法の基本概念</p> <p>2)肺理学療法の実際〔校内実習〕</p> <p>(1)呼吸訓練 (腹式呼吸、胸式呼吸、口すぼめ呼吸、インセンティブ・スパイロメトリ)</p> <p>(2)呼吸筋訓練 (過換気法、呼吸抵抗負荷法)</p> <p>(3)排痰法 (体位ドレナージ、用手的呼吸介助、催咳法、ハッフイング)</p> <p>第3回〔校内実習〕(講義・演習)</p> <p>2. 運動療法</p> <p>1)主な関節の基本肢位と正常の関節可動域の評価</p> <p>(1)関節可動域測定法(ROM)</p> <p>(2)徒手筋力テスト(MMT)</p>	<p>〈放射線画像診断・放射線治療〉</p> <p>第4回(講義)</p> <p>1. X線診断</p> <p>1)一般撮影(単純撮影) 原理と注意事項</p> <p>2. MRI 検査</p> <p>1)MRI 検査とは何か</p> <p>2)MRI 検査時の注意点</p> <p>3. 放射線防護・管理の基本</p> <p>1)放射線防護に関わる病院の義務と医療従事者の権利・義務</p> <p>2)放射線防護の3原則</p> <p>3)</p> <p>第5回(講義)</p> <p>1. 放射線治療の原理・基礎</p> <p>2. 正常組織の有害反応</p> <p>3. 治癒線量・耐容線量と治療可能比</p> <p>4. 放射線治療の特徴と目的</p> <p>5. 放射法の種類</p> <p>〈ME 機器〉〔校内実習〕(講義・演習)</p> <p>第6～7回</p> <p>1. 人工呼吸器</p> <p>2. 心電図モニター</p> <p>3. 輸液ポンプ・シリンジポンプ</p> <p>第8回</p> <p>科目終了試験</p>								
評価方法	筆記試験(100点)								
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 (医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 (医学書院) 3. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院) 4. 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 (医学書院) 5. 看護技術プラクティス (Gakken)								
参考書	1. フィジカルアセスメント完全ガイド 第2版 (学研)								
備考 (メッセージ)	校内実習をしながら授業を行っていきます。 分からないことは質問し、積極的に授業に参加してください。								

科目区分	専門基礎分野	講師名	専任教員	学年	2学年	履修期	1学期		
授業科目	多職種連携論								
単位・時間数	1単位・15時間	実務経験の有無	有						
授業方法	講義・演習								
科目目標	1. 病院における各部門の機能と役割が分かる。 2. 多職種との連携方法が分かる。 3. 患者を取り巻く多職種の役割を事例から学び看護師に必要な能力が考えられる。								
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第1回</p> <p>1. 病院における各部門の実際(1)</p> <p>1)病院見学(各部門)</p> <p>担当箇所に分かれて見学・インタビュー</p> <p>(1)看護部門</p> <p>(2)診療部門</p> <p>(3)リハビリ部門</p> <p>(4)検査部門〔臨床検査技師・放射線技師〕</p> <p>(5)薬剤部門</p> <p>(6)栄養部門〔調理師・管理栄養士〕</p> <p>(7)臨床工学技士</p> <p>(8)地域連携</p> <p>(9)療育部門</p> <p>(10)事務部門</p> <p>(11)サービス部門〔洗濯室・ボイラー・電気〕</p> <p>第2回目</p> <p>1. 各部門の役割(1)</p> <p>見学し得た内容を協同学習</p> <p>1)各部門の実際</p> <p>2)各部門の役割</p> <p>第3回</p> <p>1. 病院における各部門の実際(2)</p> <p>1)各部門の方から説明</p> <p>(1)リハビリ部門</p> <p>(2)事務部門</p> <p>(3)薬剤部</p> <p>2. 各部門の内容を明確にする</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第4・5回</p> <p>1. 多職種の役割. 患者を取り巻く多職種の役割を事例を通して考える</p> <p>1)入院～退院までの流れ</p> <p>(1)受診まで</p> <p>(2)入院中</p> <p>(3)退院後</p> <p>第6回</p> <p>1. 対象者に関わる多職種</p> <p>1)各部門の専門性と共通部分</p> <p>2. 看護師としての必要な能力</p> <p>1)看護の専門性を発揮するためには</p> <p>2)多職種との連携する上で必要な能力</p> <p>(1)アドボケイト</p> <p>第7回</p> <p>1. 多職種カンファレンス</p> <p>1)カンファレンスのシミュレーション</p> <p>第8回</p> <p>レポート課題</p> <p>「多職種と協働するための看護師の役割」</p> </td> </tr> </table>							<p>第1回</p> <p>1. 病院における各部門の実際(1)</p> <p>1)病院見学(各部門)</p> <p>担当箇所に分かれて見学・インタビュー</p> <p>(1)看護部門</p> <p>(2)診療部門</p> <p>(3)リハビリ部門</p> <p>(4)検査部門〔臨床検査技師・放射線技師〕</p> <p>(5)薬剤部門</p> <p>(6)栄養部門〔調理師・管理栄養士〕</p> <p>(7)臨床工学技士</p> <p>(8)地域連携</p> <p>(9)療育部門</p> <p>(10)事務部門</p> <p>(11)サービス部門〔洗濯室・ボイラー・電気〕</p> <p>第2回目</p> <p>1. 各部門の役割(1)</p> <p>見学し得た内容を協同学習</p> <p>1)各部門の実際</p> <p>2)各部門の役割</p> <p>第3回</p> <p>1. 病院における各部門の実際(2)</p> <p>1)各部門の方から説明</p> <p>(1)リハビリ部門</p> <p>(2)事務部門</p> <p>(3)薬剤部</p> <p>2. 各部門の内容を明確にする</p>	<p>第4・5回</p> <p>1. 多職種の役割. 患者を取り巻く多職種の役割を事例を通して考える</p> <p>1)入院～退院までの流れ</p> <p>(1)受診まで</p> <p>(2)入院中</p> <p>(3)退院後</p> <p>第6回</p> <p>1. 対象者に関わる多職種</p> <p>1)各部門の専門性と共通部分</p> <p>2. 看護師としての必要な能力</p> <p>1)看護の専門性を発揮するためには</p> <p>2)多職種との連携する上で必要な能力</p> <p>(1)アドボケイト</p> <p>第7回</p> <p>1. 多職種カンファレンス</p> <p>1)カンファレンスのシミュレーション</p> <p>第8回</p> <p>レポート課題</p> <p>「多職種と協働するための看護師の役割」</p>
<p>第1回</p> <p>1. 病院における各部門の実際(1)</p> <p>1)病院見学(各部門)</p> <p>担当箇所に分かれて見学・インタビュー</p> <p>(1)看護部門</p> <p>(2)診療部門</p> <p>(3)リハビリ部門</p> <p>(4)検査部門〔臨床検査技師・放射線技師〕</p> <p>(5)薬剤部門</p> <p>(6)栄養部門〔調理師・管理栄養士〕</p> <p>(7)臨床工学技士</p> <p>(8)地域連携</p> <p>(9)療育部門</p> <p>(10)事務部門</p> <p>(11)サービス部門〔洗濯室・ボイラー・電気〕</p> <p>第2回目</p> <p>1. 各部門の役割(1)</p> <p>見学し得た内容を協同学習</p> <p>1)各部門の実際</p> <p>2)各部門の役割</p> <p>第3回</p> <p>1. 病院における各部門の実際(2)</p> <p>1)各部門の方から説明</p> <p>(1)リハビリ部門</p> <p>(2)事務部門</p> <p>(3)薬剤部</p> <p>2. 各部門の内容を明確にする</p>	<p>第4・5回</p> <p>1. 多職種の役割. 患者を取り巻く多職種の役割を事例を通して考える</p> <p>1)入院～退院までの流れ</p> <p>(1)受診まで</p> <p>(2)入院中</p> <p>(3)退院後</p> <p>第6回</p> <p>1. 対象者に関わる多職種</p> <p>1)各部門の専門性と共通部分</p> <p>2. 看護師としての必要な能力</p> <p>1)看護の専門性を発揮するためには</p> <p>2)多職種との連携する上で必要な能力</p> <p>(1)アドボケイト</p> <p>第7回</p> <p>1. 多職種カンファレンス</p> <p>1)カンファレンスのシミュレーション</p> <p>第8回</p> <p>レポート課題</p> <p>「多職種と協働するための看護師の役割」</p>								
評価方法	レポート評価 50%、授業への取り組み態度 20%、プレゼンテーション・ディスカッション 30%								
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1] 看護管理(医学書院)								
参考書									
備考 (メッセージ)	医療はチームで行っている。それぞれの部門が専門性を発揮して患者の看護を行っている。看護師は多職種と協働していく必要がある。協働していくためには多職種の役割を理解する必要がある。多職種の役割を知ることで、看護師としてどのような能力が必要か考えてほしい。								